

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	113	人	社会	113	人	数学	113	人
	理科	113	人	英語	112	人			

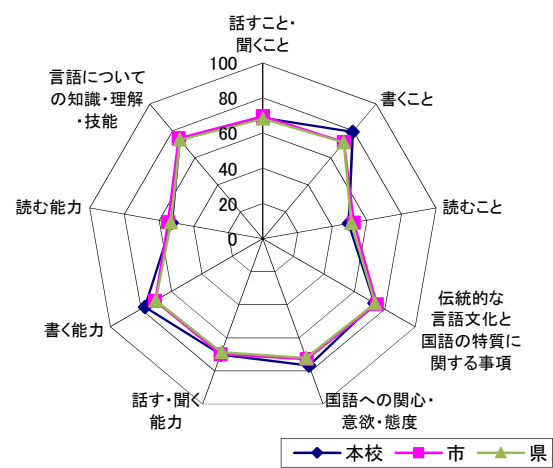
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	68.7	69.6	68.2
	書くこと	79.4	71.7	71.5
	読むこと	49.5	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.3	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	76.8	72.8	72.1
	話す・聞く能力	70.1	69.9	68.7
	書く能力	77.5	70.7	70.3
	読む能力	52.6	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	73.7	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

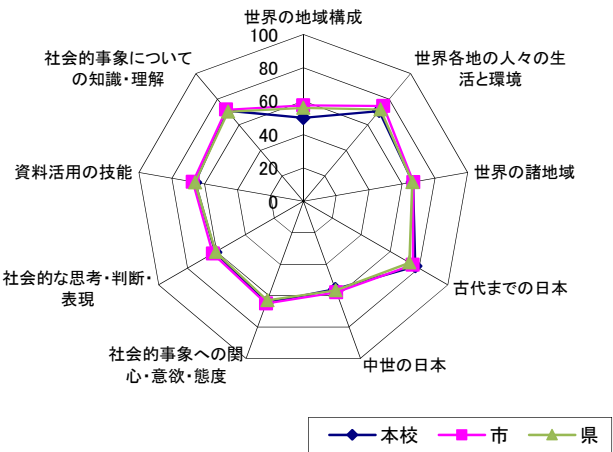
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・領域の正解率は、市の平均を0.9P(ポイント)下回っているが、県の平均を0.5P上回っている。 ○話し合いの話題をとらえて、相手の発言を注意して聞く設問では、市を3.8P、県を5.3P上回っている。 ●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る設問では、市を6.0P、県を5.5P下回っている。 ●「資料を作成して発表する」の話の構成を工夫して、相手にわかりやすく伝える設問では、市を2.1P、県を0.4P下回っている。	・「表現力の向上」は本校の課題の一つなので、改善を目指して、相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って聞き取る学習活動を多く取り入れるようにする。 ・話す前に「書く」活動は効果があるので、自分の考えをまとめるだけでなく、聞き手に理解してもらうためにはどうしたらよいかという観点を付け加えて、今後も取り組みを継続していく。
書くこと	○領域の正解率は、市を7.7P、県を7.9P上回っている。 ○書いた文章を読み返し、わかりやすい文章にする設問では、市を9.2P、県を10.4P／読み取った内容を明確にして書く設問では、市・県ともに13.0P上回っている。その他、「書くこと」の正解率が全て5P以上、市・県を上回っている。	・本校の課題の1つである「書く力」について、短作文を書くことで改善がみられてきたので、今後も少ない文字数で出題意図や条件を十分に理解した上で、「簡潔にまとめて」書けるように指導する。 ・長期休業期間には、様々な課題、様々な分量の課題作文にじっくりと取り組めるように、作文指導をしっかりとしていくようにする。
読むこと	●領域の正解率は、市を3.1P、県を1.5P下回っている。 ●文章の構成や展開をとらえる設問では、市を10.8P、県を10.5P／場面の展開をとらえる設問では、市を10.8P、県を7.1P下回っている。 ○文章の表現の特徴をとらえる設問では、市を5.9P、県を7.6P上回っている。	・「小説」「詩」などについては、登場人物の言動だけでなく、場面の情景描写、更に伏線となる描写などからも、登場人物の心情や作者の意図した主題などを読み取ることができるよう指導する。 ・「説明文」など、論理的な思考が必要とされる文章では、接続語・指示語・段落構成などから、筆者の論の進め方を理解していくことができるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の正解率は、市を1.5P、県を0.2P下回っている。 ●第1学年までに学習した漢字を読む設問では、市を2.0P、県を1.5P／小学校で学習した漢字を書く設問では、市を2.7P下回り、県と同程度である。 ●単語の理解に関する設問では、市を8.5P、県を6.0P下回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問では、市県ともに6.6P上回っている。	・引き続き漢字の読み書きを身に付けさせるために、漢字練習プリントや小テストを行うなどの手立てを継続する。また、漢字の成り立ちや部首などの知識については、新出漢字を学ぶときなど、折に触れて思い出させるような指導を工夫する。 ・文法については、単語の性質の確認として「品詞」の学習を系統的に復習し、再確認させる指導を行う。 ・歴史的仮名遣いについても、古典の音読みを合わせてしっかりと身に付くようにさせる。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	50.1	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	70.8	74.6	71.9
	世界の諸地域	66.6	67.0	66.3
	古代までの日本	77.5	75.7	73.3
	中世の日本	55.8	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	64.7	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	60.9	62.5	60.5
	資料活用の技能	65.9	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	71.0	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

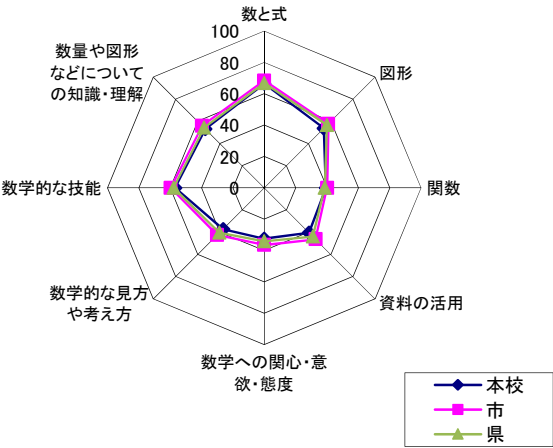
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	●地理の社会的な事象の知識・理解について市より平均が低い。 ●地図からの読み取りの正答が低く、一年生の最初の分野の「緯度・経度、緯線・経線」の違いが分かっていない ●資料活用の点においては、各州や各大陸の山脈・川の名前などの「位置」「名称」などをうる覚えにする生徒が多い。	・教科書の太文字となる基本事項を徹底的に確認していく。 ・小テストの中で一年生からの復習を盛り込み、忘れている内容をもう一度確認させる機会を増やしていく。 ・地図をただ覚えるのではなく、周囲の地域との関係性や、地理的特徴・産業とのつながりなど複合的な視野で考えさせる。その際に、歴史的な背景などとの関連もつなげていく。
世界各地の人々の生活と環境	●平均正答率は、県より低く、市よりは低い。 ●雨温図の正答率は、平均よりは低くないが、世界各地の気候区分を理解している割合が低い。	・雨温図をただ覚えるのではなく、周囲の地域との関係性や、地理的特徴・産業とのつながりなど複合的な視野で考えさせる力を身に付けさせたい。
世界の諸地域	○平均正答率は、県より高く、市よりは低い。 ●ヨーロッパの農業や産業でグラフや、図表から読み取る力が不足している生徒が多い。	・グラフを読み取る授業では、「①何が聞かれているグラフなのか ②グラフのどの部分に注目すべきなのか ③複数の情報をどう比較すべきか」という3点をしっかりと指導していく。
古代までの日本	○平均正答率は、県より高く、市よりは高い。 ●中世のつながりになる、摂関政治が理解できていない生徒が多い。	・平均的に点数をとれているが、教科書の基本的な事項（太文字）レベルが覚えられていない生徒が多い。これは、得意不得意ではなく「必ず覚えるレベル」と位置付けて、徹底的に書かせて覚えさせていく必要性を感じる。 ・藤原氏の摂関政治は、小学校での既習事項にもなっているものなので、復習の時間を取るようにする。 ・歴史のつながりが分かるように、「前の時代」と「今の時代」がどのような部分でつながるのかを意識させた取り組みを行う。
中世の日本	●県・市の平均も低く、本校の正答率も低い ●鎌倉と室町時代の諸外国との関係性の違いが理解できていない生徒が多い。 ●日明貿易の行われた事実はわかるが、どのように行っていたのかを説明する力が弱い。	・「日本と世界のつながり」や「日本国内でも離れた地域でどう関わりがあったのか」という大きな視点で歴史をとらえる見方を意識させる。（勘合貿易、日宋貿易の違いを説明する練習など） ・記述問題に関しては、苦手にせず「まずは書く」という意識改革を行う。その際に、「必ず使う語句」を明確にし、どうすれば点数につながるのかを、添削できる工夫を行っていく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.5	68.4	66.8
	図形	53.6	57.8	56.5
	関数	39.3	40.1	38.5
	資料の活用	40.4	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	32.4	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	37.1	42.5	40.5
	数学的な技能	56.9	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	53.1	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

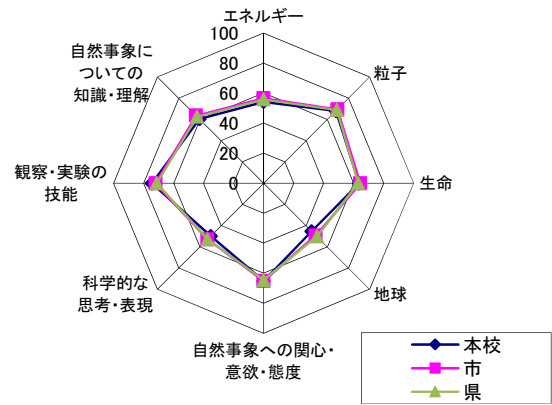
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○正の数・負の数や文字式、1次方程式の基本的な計算については、県の正答率より高く、おおむね良好である。 ●1次方程式の文章題については、正答率が低い。また、比例式を解く問題については8.3%県の正答率を下回っている。	・正の数・負の数や文字式の計算は、今後の計算問題の基盤になるものなので、更にしっかり定着できるよう繰り返し学習していく。 ・文章題は苦手としている生徒が多いが、問題をよく読み、立式するために必要なポイントを押さえられるよう丁寧に指導していく。
図形	●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○図形の移動については7.8%、と直方体の直線の位置関係については11.8%、県の正答率より上回っている。 ●おうぎ形面積を求めることについては18.1%県の正答率より下回っている。また、空間図形の投影図や回転体、円錐と円柱の体積の関係についても県の正答率より低かった。	・図形の面積や体積を求める問題については、公式をよく確認し、いろいろな条件に合わせて計算できるよう多くの問題に取り組みさせる。 ・空間図形については、頭の中でイメージして考えられるようにしっかりと図形の見方を身に付けさせる。
関数	●平均正答率は、県より高かったが、市より若干低い。 ○ほとんどの問題について、県の正答率より高く、おおむね良好である。また、ある条件を満たす比例の式を求める問題については、9.7%県の正答率を上回っている。 ●比例の与えられた式から問題を解決する方法を説明することについては6%県の正答率を下回っている。	・式、表、グラフをつなげて考えられるようにし、関数についてより理解を深めさせていく。 ・説明をする問題については正答率が低いので、普段からどうしてそのようになるのか言葉で説明できる場面を増やしていく。
資料の活用	●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○ヒストグラムの階級の幅を求めることについては8.7%県の正答率を上回っている。 ●資料の特徴を示す根拠となる値を判断することについては13.9%県の正答率を下回っている。また、階級の相対度数や真の値の範囲を求めることについても、県の正答率より低かった。	・用語の意味や求め方をよく確認し、定着させる。 ・様々な資料の特徴や用語の意味を理解させ、数学的に説明する力が身に付くような課題に取り組みさせていく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	54.2	56.6	55.8
	粒子	68.1	69.6	69.0
	生命	63.6	64.4	63.0
	地球	45.3	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.1	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	49.8	52.8	52.8
	観察・実験の技能	74.4	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	60.5	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

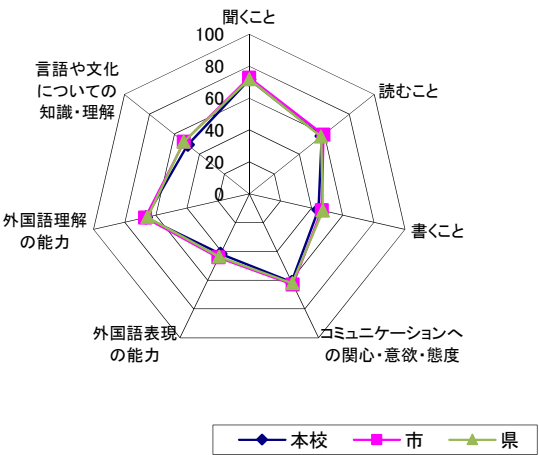
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音の高さを変える要素やフックの法則に関する問題では、県の正答率を上回っている。 ●全体の正答率が、市・県の両方の正答率を下回っている。また、力の大きさを求める問題や音の高さと振動数の関係についての問題では、県の正答率を5ポイント以上下回っている。	エネルギー分野では、光・音・力など目に見えない概念が多く、それをしっかりと理解することが難しいと感じる生徒が多い。その反面、身近な科学現象として捉えられることも多い。そのため、授業では様々な現象を紹介し、経験させる時間を多くしていく。それに加え、問題演習の時間も確保することで、思考力を高める工夫をしていく。
粒子	○物質の区別や気体の性質など、実験に関するものの知識的な問題については、正答率が8割を超えるものがいくつかある。 ●全体の正答率が、市・県の両方の正答率を下回っている。また、濃度を計算する問題や粒子モデルに関する問題では、県の正答率を大きく下回っている。	粒子領域では、物質を量的・質的に捉えることに抵抗を感じる生徒が多い。単なる暗記で済ましてしまうのではなく、生徒がイメージを持って理解できるよう、モデルを表す図や小学校での既習事項を示すなど、丁寧な授業展開を心がける。
生命	○全体の正答率が、県の正答率を上回っている。それぞれの問題についても、県の正答率を上回っているものが多くある。 ●全体の正答率が、市の正答率を下回っている。基本的な問題においても、正答率が8割を超えるものがない。	生命分野の問題では、選択式のものが多いので、選択肢が変わればそれが正答率に影響することも考えられる。そのため、授業では野外観察や画像などを多く取り入れ、実物に触れる時間を増やしていく。
地球	●全体の正答率が、市・県の両方の正答率を下回っている。ほとんどの問題について、県の正答率を下回っている。	化石から地層の年代などを推定したり、岩石から火山の様子を判断したりする力が弱い。地球というスケールの大きなものを取り上げているので、関心を高く持ち想像を広げる力が必要である。火山灰や岩石を実際に観察し、映像資料も補助資料として活用することで、指導法を工夫していきたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.7	72.8	71.8
	読むこと	58.0	59.4	57.5
	書くこと	44.4	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	61.3	63.0	62.2
	外国語表現の能力	41.6	44.2	43.6
	外国語理解の能力	66.4	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	49.3	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●平均正答率は、県や市より低い。 ○スピーチのテーマや趣味趣向などについての英文の要点を聞き取る問題の正答率は、県より5%近く高い。 ●対話の内容を聞き取り適切に答える問題の正答率は、県と同じかそれ以下に留まった。	・聞き取りの問題を苦手としている生徒が多いことが伺えるので、日ごろの授業で音声をたくさん聞くだけでなく、日常生活の隙間時間などを使ってニュースや音楽などのリスニング環境を増やすよう啓発していく。
読むこと	○平均正答率は、県より高く、市よりは低い。 ●短文・中文の読み取りの正答率は、県より高く、市よりは低い。 ○長文の読み取りの正答率は、県や市より0.1ポイント以上高い。	・引き続き、教科書や資料などのまとまった英文を読む環境を維持し、平均正答率が更に向上するよう支援していく。
書くこと	●平均正答率は、県や市より低い。 ○命令文や一般動詞の過去形などについては理解が定着しており、正答率は県の平均を上回った。 ●基本的な語いの知識が足りていないところがある。 ●現在進行形や疑問詞を用いた疑問文を苦手としており、正答率は県の平均を下回った。	・基本的な語いや基本文の定着を図るための工夫として、授業の中でチェックする時間を確保していく。そうすることにより、家庭学習の時間をより多くとり、その中で知識を反復練習する習慣を身に付けさせる。

宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」の肯定的回答は88.4%で県平均より8.3ポイント、「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答は90.2%で県平均より0.9ポイント、「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的回答は93.8%で県平均より6.8ポイント上回っている。また、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答も県平均より0.9ポイント上回っており、家庭で大切な一員であり、きちんと認められていると感じている生徒が多いことがわかる。

○家庭学習では、「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答が98.3%で県平均より2.7ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が81.3%で県平均より6.2ポイント、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答が82.1%で県平均より14.2ポイント上回っている。家庭学習ノートの取組やテストで間違えた箇所の復習など、学校での学習活動と家庭学習の相関性が高く、一定の成果が表れていると考えられる。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答は86.6%で県平均より0.6ポイント、「自分が持っている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答は92.8%で県平均より2.3%、「人と話すことは楽しい」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」に対する肯定的回答は94.7%で県平均より4.3%上回っている。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」では肯定的回答が77.7%で県平均を6.4ポイント上回っており、自分の周りの出来事や人に対する関心を持ち、役に立ちたいと考えている生徒は多い。地域でのボランティア活動やあいさつ運動など、一定の効果が上がっていることがうかがえる。

●「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答は88.4%で県平均より2.5ポイント下回っている。家庭や学校で十分に認められていると感じる生徒が多い一方、困難なことに立ち向かっていく力がやや弱いという結果が出ている。日常の学校生活のさまざまな場面で、また、行事や委員会活動、部活動などの各場面で、生徒が達成感を感じられる場面を増やしていく。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答が52.7%で県平均より3.3ポイント下回っている。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の肯定的回答が61.6%で県平均を4.8ポイント下回っている。自己主張をすることで、また失敗することで周囲とうまく協調できなくなるのではないかと不安に感じている生徒が比較的多い結果が出ている。互いに認め合う場面を増やすなどして、自信を持って何にでも取り組めるような環境づくりが必要だと思われる。

●「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答が71.4%で県平均より2.5ポイント下回っている。また、「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答が64.3%で県平均より1.4ポイント下回っている。社会体験学習などを通して、生徒・保護者ともに将来の進路を考えたり、話し合ったりできるよう働きかけていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な「学びあい」を通した確かな学力の育成と向上	- 自分の考えを書いてまとめ、発表する活動 「学びあい」などにより、個々の考えを練り上げる活動 - ICTを活用した授業による活動	生徒質問紙で、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と考えている生徒が県平均より3.8ポイント上回っている。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と考えている生徒は県平均を1.4ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習の定着状況は、国語以外の教科で、宇都宮市の平均を下回る項目がある。特に各教科、知識・理解をめぐる問題において下回る傾向がある。	- 言語活動、特に書くことを取り入れた授業の工夫と改善 - 個々の考えを練り上げて、互いに学びあう活動の工夫と改善 - ICTを活用した授業による活動の工夫と改善	- 授業中、またテストにおいても記述の内容を増やし、どのように考えをまとめるか、どんな発表をするかについて、具体的に指示していく。 - ICTを活用した授業を全職員で取り組み、知識・理解の定着を目指して取り組んでいく。